

## 「夢」をかたちに ～女性部の活性化へ向けて～

中国・四国地区 愛媛県 JAえひめ南女性部

山下由美

『組織のリーダーは乗り合いバスの運転手さんのようなもの。「あわてず、あせらず、あきらめず」足の早い人も遅い人も同じ一台のバスに乗り合わせて進むドライバーの役割を担っています。』

三年前、組織活動に行き詰まっていた私に頂いた一通の手紙の内容です。33歳でフレッシュミズの役を引き受けてから今年で10年。人脈は全国へと広がり同じ境遇で悩みながらも前進する仲間が存在は組織の中でくじけそうになる私の力となったものです。たくさんの人と出会い、私を大きく成長させてくれたJA女性部、その中で走り続けてきました。

私たちの所属するJAえひめ南は愛媛県の最南端に位置し、組合員数約2万人、県内では最大規模の総合JAです。私たちJA女性部は部員数2,066名、その内約2割がフレッシュミズ部員となっています。全国では年間10万人単位で部員数が減少しているという現状の中、私たちのJAも例外ではなくJA離れに伴う部員数減少がここ数年の問題でありその対策が課題となっています。

その打開策として、「女性部、またフレッシュミズ活性化対策検討委員会」をそれぞれ立ち上げ、女性の正組合員化推進運動、また、「星の数ほどミニグループを作ろう」を合言葉に部員相互の意識統一また数値目標を掲げ、私たちJAえひめ南女性部は着実に歩みを進めてきました。

私たちの活動の中心は津島支所女性部。私の原点はフレッシュミズ部会。当時、子育て真最中だった私たちのいつもの話題は「食」。こんな田舎でもスーパーのお総菜コーナーが売り上げNo.1と聞き「作る食事」から「買う食事」へと変化していることに危機を感じました。農に携わる私たちから発信しなくてはとの思いを強く持ち、私を含め「食」と「農」に関心のある農家女性4人で加工施設「津島あぐり工房」を立ち上げました。

「次世代に地域の伝統の味を残したい」。そして「農家女性として『経済的自立』をしたい」。まず取り組んだのは、地域の大豆や麦を原料とする味噌作りでした。私たちフレッシュミズ世代の強みは、PTAを巻き込んだ活動ができることです。

JAの女性部活動には敬遠気味のお母さんたちも、子供たちの「食」には関心を持ってくれます。夏には親子での味噌作り教室、冬には餅つき大会と、今では、私たちの「津島あぐり工房」は「食農教育」の実践の場となっています。

また、工房立ち上げと同時にスタートした月一度のAコープ前での店頭販売。

自分たちで作った加工品を売り、得たわずかな収入に何とも言えない喜びを感じたものでした。いずれは女性部全体で取り組みたい、そして常に消費者に提供できるお店を持ちたいと夢が広がりその夢が私たちの原動力となりました。

店頭販売を初めて4年目。女性部長の理解を得られ津島女性部全体の取り組みへと変化しました。私たちの地道な活動を背景に食品加工グループを中心に着実に部員数は増え、名ばかりだった女性部員も実働部隊へと動き始めました。女性部活動によってお金を生むことの喜びを知り、それを元にまた新たな活動を展開する。それがうまく回り始めたのです。活性化検討委員会で「星の数ほどミニグループを作ろう」と掲げたとき、津島女性部のミニグループは3つ。今では食品加工グループから手芸木工まで19ものグループが活動し、部員数も350名あまりから404名と増えたのです。

ミニグループが増えそれぞれの自慢の商品が並ぶようになり月一度の店頭販売はさらに活気付きました。女性部長の発案により、これらの商品を使って「いなか」を売り込もうと言うことになりました。ターゲットは田舎から都会へ出た人たち。「つしまうまいもん宅急便」の誕生です。箱の中には12品目、ふるさとの味をぎっしり詰め込みました。三年前スタートしたこの活動も年々申し込みが増え昨年末には300ケースを全国各地へ発送しました。お客さんから「箱を開けたとたん田舎の香りがして・・・色んな物が出てきて玉手箱のようです」とうれしいお便りをいただき、そのことがまた私たちの励みとなっています。

そして昨年12月、JA役職員の皆様のご理解をいただき私たちの願だったJA女性部のお店「よんさいや」をAコープ津島店横にオープンすることができました。遊休施設を使わせてほしいとJAにお願いしてから二年目のことでした。開店に向けて部員総出となりましたが404名いればいろんな「手」があります。ディスプレイから店内の椅子やテーブル、看板に至るまで部員の手によるものばかり。それぞれの得意分野をフルに発揮しました。オープンした店内には 伝統の麦みそやちりめんじゃこのふりかけなど、地域の特産品を使ったこだわりの加工品、そして腕自慢の手芸品、苔球など部員手作りの品が並びます。その他、じゃこてんうどんや、コーヒーといった軽食も提供しています。

私たちだけで店頭販売していた頃に比べお客さんの層も広がりました。フレッシュミズ、ミドル、エルダー層がひとつになり、和合すれば大きな力になることを目の当たりにし、「組織力」また「継続することの大切さ」を痛感しました。何より年配者の意見を尊重しながらも若年者の意見を吸い上げひとつずつ形にしてきた女性部長の存在は私たちフレッシュミズ層にとっては心強いものでした。

ここ最近食の安心安全が毎日のように報道され国産を求める消費者が増えるなど食卓を預かる主婦の意識も変わりつつあります。しかし食料自給率40%

の我が国は食料の6割を外国からの輸入に頼っているのが現状です。私たちJA女性部が実践し発信する、「津島めぐり工房」また「つしまうまいもん宅急便」そして小さなお店「よんさいや」は、食について関心を持ってもらうこと、日本の農業について理解を深めてもらうこと、それがさらには地球環境を守ることに繋がっていくことを知ってもらいたい。そして、広くは「地域再生」へとつなげたい……そんな願いが込められています。

私の中でのJA女性部活動は素晴らしいものです。しかしJAと言うと少し敬遠する若い人がいると言うのも事実です。女性部活動も従来のような趣味の活動の延長では発展性はないと考えています。魅力ある活動それは楽しく、そしてわずかでもお金を生むような活動であること。組織に対するJAからの助成金が減る中「してもらって当たり前」との認識を変え、JAというベースの上でうまくそれを利用し「自立」していくこと、それが今の私たちには必要なのではないでしょうか。JAにおんぶに抱っここの時代は終わったのです。

この10年、目標を掲げ「夢」を持ち着実にひとつずつ達成してきました。そしてまた私たちの新たな「夢」に向けての挑戦です。今年4月、宇和島市に新しく交流拠点施設が出来、その中にJAの直営店として「手作りパン工房みなみ」がオープンし、JA女性部のメンバーで関わることになったのです。数年前より米粉に興味があり研修を重ねていた私たちにとっては願ってもない展開でした。今はまだ試行錯誤しながらですが軌道に乗せようとみんなで奮闘中です。

夢を実現する成功への近道、それは継続すること、その想いを語り続けること。地方から発信の時代。派遣切りが社会問題となり、今農業、農村が見直されています。だからこそ、JA、またJA女性部組織の活性化、その取り組みが地域活性化へ向けての近道であると信じて、この発表を終わらせていただきます。